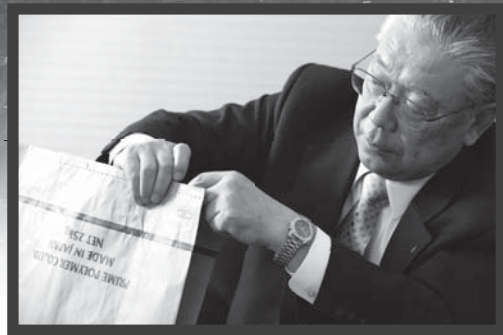




内容物や用途に応じてさまざまなタイプがあるクラフト紙重包装袋

「エスキュー
ンテナ用内袋
りたたみ式コ
ナで運べる折
通常のコンテ
ヤ、液状物を
「エスタンク
体用コンテナ
製品です。液
量に輸送する
ど液体を大
つが、お酒な
の液体を大
量に輸送する
製品です。液
体用コンテナ
「エスタンク
ヤ、液状物を
通常のコンテ
ナで運べる折
りたたみ式コ
ンテナ用内袋
「エスキュー

減に貢献していきます。」
(談)

9年に山陰製袋工業をグループに加え、供給能力、ラインアップともに増強しました。1997(平成9)年には、タイにタイ昭和パックスを設立しました。本年、月産能力500万袋となる、アジア最大級の生産能力を持つ製袋工場を核に、東南アジア、中国に進出している日系化学メーカーの需要に添えていきます。さらにこれからますます重要なのが環境への配慮。今後も省資源、省エネで、リサイクルしやすい製品の開発を通して、社会全体の環境負荷低減に貢献していきます。」

社長が語る

昭和パックス株式会社

顧客の要望に合わせて
開発する多彩な重包装袋

わが社は、1935(昭和10)年に昭和製袋工業の名で設立され、クラフト紙重包装袋を造り続けてきました。石灰窒素を入れる袋として開発した防湿防水多層袋を皮切りに、樹脂、セメント、米、麦と、さまざまな用途に合わせた重包装袋を開発し、現在ではJA、石油化学メーカー、食品メーカー、素材メーカーなどに製品を提供しています。

重包装袋はなかに入れるものによって要求されることが変わります。セメントの袋には水分が入らないようフィルムを挟んだり、酸素の遮断が必要な素材にはアルミ箔を貼ったり。開封しやすさに配慮したものや、紙の使用量を減らした省資源タイプもあります。わが社の重包装袋に既製品はなく、お客様の要望にあわせて造られます。

さらにわが社では、産業用や農業用のフィルム、コンテナなどにも事業を広げています。売り上げ比率では重包装袋が約65%、フィルム製品が約22%、コンテナが約8%です。とくに今、力を入れているものの一つが、お酒などの液体を大量に輸送する製品です。液体用コンテナ「エスタンク」や、液状物を通常のコンテナで運べる折りたたみ式コンテナ用内袋「エスキュー

ブ」などは、輸送効率を大幅にアップさせ、コスト削減、省エネ、省資源になると顧客から喜ばれています。

アジア最大級の生産能力を持つ
タイ工場から海外へと展開

2009年から各工場に、独自の「昭和トレーサビリティシステム(STS)」を配備しました。一つひとつの袋にバーコードを印字し、製造工程の記録をトレースでき、万一、製造上の問題が見つかった場合も、対象となる製品の範囲を最小の幅で特定できます。顧客の内容物を守り、砂糖や脱脂粉乳などの食品輸送における安心にもつながります。

わが社の工業所有権は出願中のものも含めて63件。創業以来、ひたすら顧客のニーズに応え、あくなき技術の追求を続けてきた結果です。若手にどんどん責任ある仕事を任せ、社員一人ひとりが存分に能力を発揮できる企業風土もあります。社員が必死で生み出した製品は決して安売りしません。それは独立企業としてのプライドでもあります。

米や塩、合成樹脂など粒や粉状のものの保管、輸送に使われるクラフト紙重包装袋は、扱いやすさ、経済性、環境性能から物流業界では不可欠なもの。そんなクラフト紙重包装袋の国内シェアナンバー1企業、昭和パックス株式会社代表取締役社長の河野弘征さんが、自社の事業について語る。

あくなき製品開発と技術で 物流の効率化と環境に貢献



昭和パックス株式会社
代表取締役社長

河野弘征さん